子どもの居場所づくり推進事業

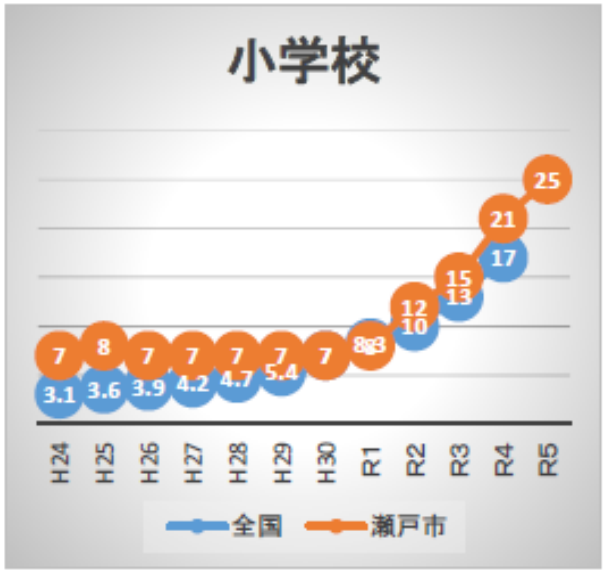
せと“ここ”ほっとルーム

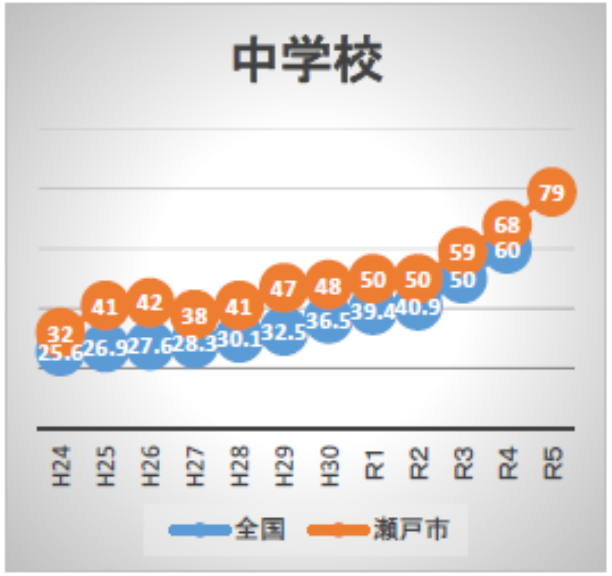
１　設置の経緯

子ども・子育て関連支援施策が急速に拡充される中、教育現場も「誰一人取り残されない学びの保障」を掲げ、大きな変化を求められています。

不登校については、コロナ禍による閉塞感の影響も大きく、令和２年度以降、全国的に急増しており、瀬戸市においても同じ傾向が続いています。不登校となる要因は、学校、家庭等様々ですが、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得るものとしてとらえていくことが重要です。

①　全国的な不登校者数の推移1000人当たり





②　瀬戸市における不登校者数（令和５年度）

小学校162人（割合　2.5%）
中学校256人（割合　7.9%）　小中合計418人（割合　4.3%）

２　不登校児童･生徒の学びの場について

令和４年度における本市の不登校児童・生徒数は３６３人

●「学習の場」
・校内　　５４％
・オアシス21　　８．５％
・フリースクール　３．６％

●「学習の場なし」
３５％

学校は行きなれた場所であり、また自分の力で登下校できる場所であるため、多くの児童生徒の学びの場となっていますが、場所や指導する人が不十分な状態であるため、利用時間や利用回数は限定的なものとなっています。

３　総合的な対策について

①　土台となる学校の努力（「魅力ある学校づくり」と「わかりやすい授業」の工夫）

②　未然防止のための取り組み（児童生徒がＳＯＳを発することができるような環境整備）
教育相談、ＱＵ（学級集団アセスメント）、タブレット（ライフノート）の活用

③　早期発見と対応（教職員、SC、SSWer、保護者が連携・協働して課題に対応する。）

④　なかなか学校に来られない場合
ケース会議で支援方法を協議し、家庭訪問やＳＣ、ＳＳWer等によるカウンセリングを行い
本人や保護者の考えを把握したうえで、学びの場を保障する。

校内の居場所（教室以外の別室）の設置が、本市の不登校対策を組織的・継続的に進める上で重要であり、居場所職員をはじめ、学校教職員、SC、SSWer、関係機関等それぞれが役割を確認しながらチームとして動くことで、重層的支援構造による支援が可能となります。

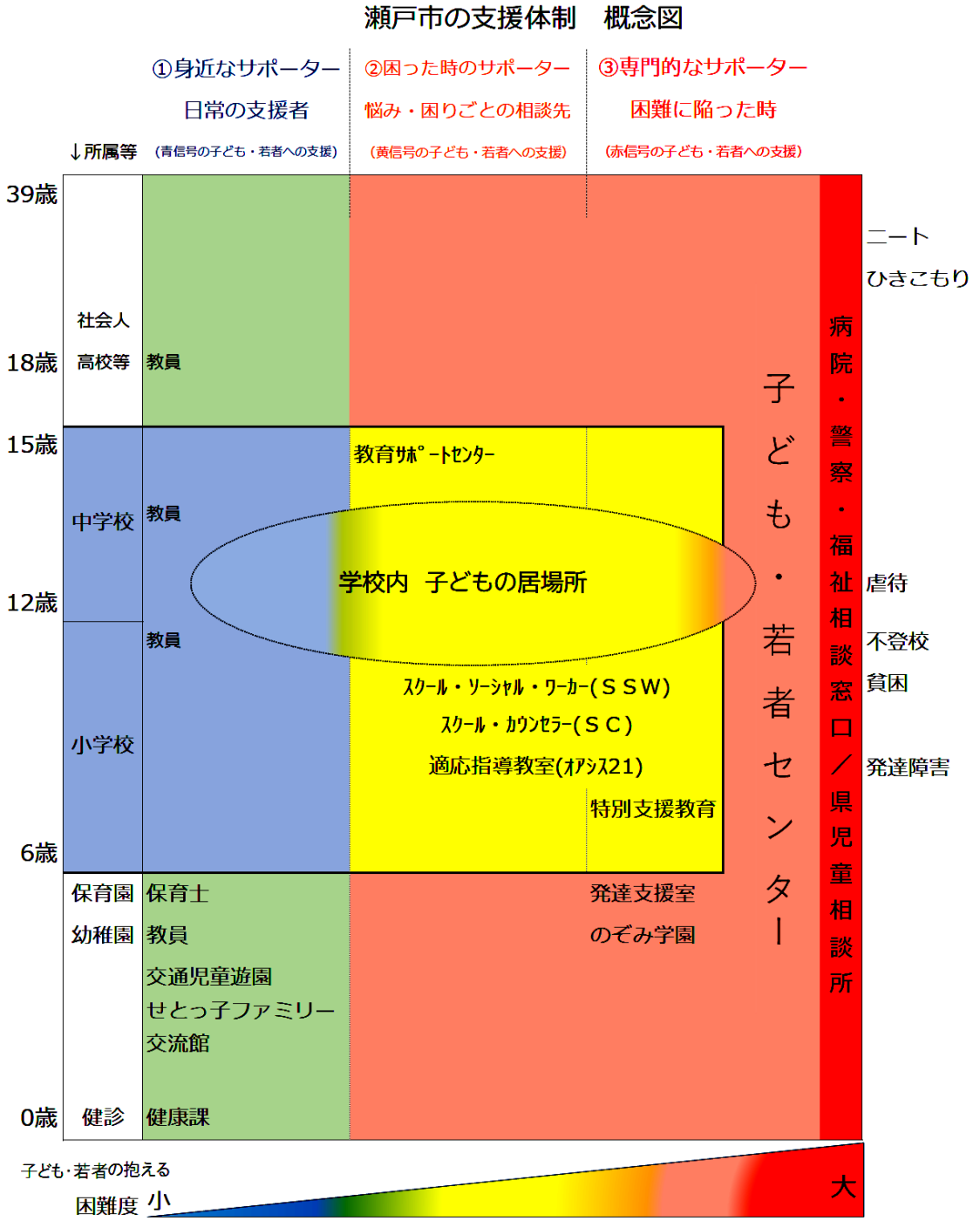
4　子どもの年齢と支援体制について

●子ども・若者の年齢、発達段階と困難度に応じた支援体制は、分野やセクションを越えて関わり合っています。

●「教育」は、学校だけで完結できるものではなく、「福祉」や「医療」など他方面からのアプローチや支援なしには、子どもや家庭の多様なニーズに対応できない状況にあります。

●学校は、子どもたちが一日の中で多くの時間を過ごす場所であることから、ここ「学校」を核として様々な分野が連携・協力して支援することが、子どもを取り巻く環境へアプローチしやすいものと考えます。

●教育委員会では、子どもや家庭の困難に対応する手段として、「教育」と「福祉」を融合したアプローチができる仕組みとして、子どもの居場所づくり推進事業「せと“ここ”ほっとルーム」に取り組んでいます。



５ “ここ”ほっとルーム

① 設置目的
子どもが安心して、居心地よく過ごす居場所として、学校とは異なる生活や学習等の環境を整え、子どもが安心して主体的に過ごし、将来の自立につながる力を身に付けるための場とする。

② 設置場所（開所年月）・開所時間
市内全中学校内＋オアシス21内
光陵（R5.7～）、水無瀬・南山・にじの丘（R5.9～）
品野・水野・幡山、オアシス21（R6.4～）

③ 人員体制（R6配置イメージ）
所長・副所長　計4人（7か所を兼務）
生活・学習支援員（1か所につき）
7.5H×5日／週　1人、4.5H×5日／週　1人　4H×2日／週　1人

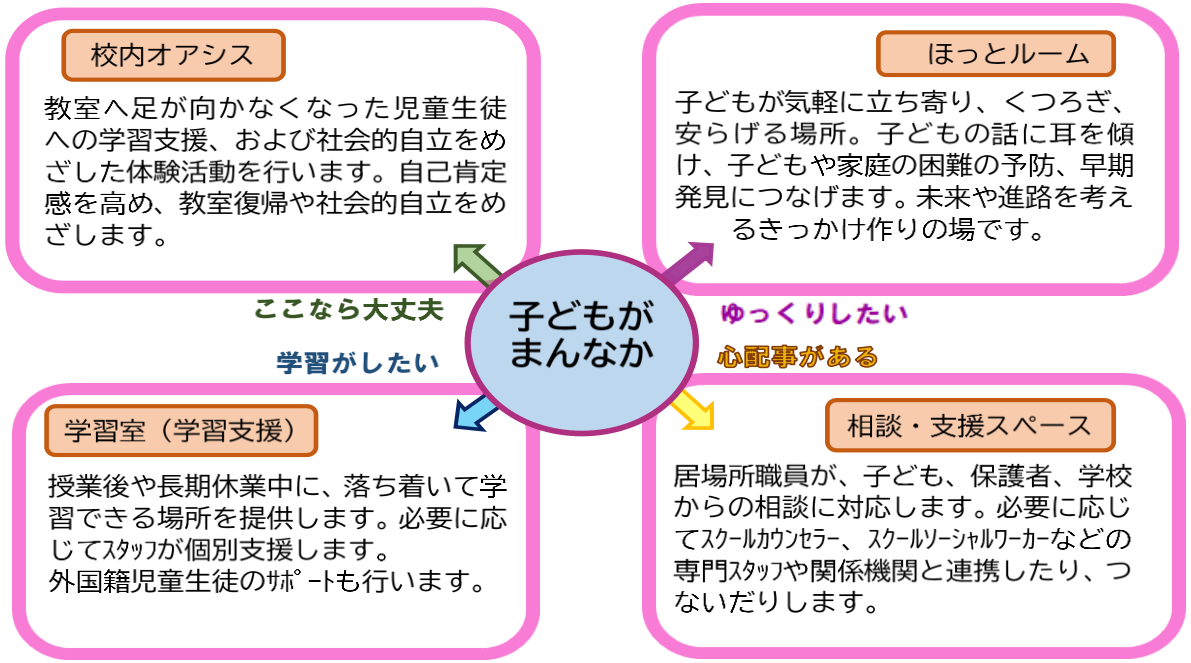
5 “ここ”ほっとルーム

① 設置目的
子どもが安心して、居心地よく過ごす居場所として、学校とは異なる生活や学習等の環境を整え、子どもが安心して主体的に過ごし、将来の自立につながる力を身に付けるための場とする。

② 設置場所（開所年月）・開所時間
市内全中学校内＋オアシス21内
光陵（R5.7～）
水無瀬・南山・にじの丘（R5.9～）
品野・水野・幡山、オアシス21（R6.4～）

③ 人員体制（R6配置イメージ）
所長・副所長　計4人（7か所を兼務）
生活・学習支援員（1か所につき）
7.5H×5日／週　1人
4.5H×5日／週　1人
4H×2日／週　1人

目的に合わせた４つの機能



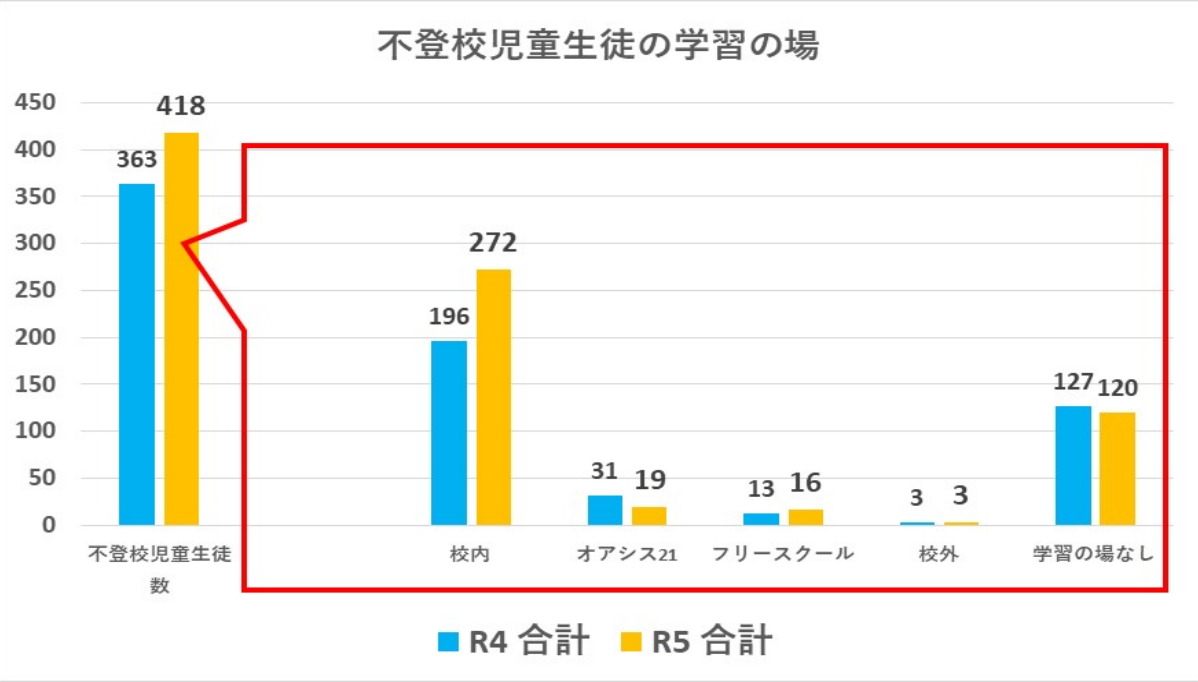
６ “ここ”ほっとルームの実績と成果

【実績】

① 登録者数（７中学校内ほっとルーム）
R5年度末：66名（中学生55名、小学生11名）
R6.7現在：110名（中学生89名、小学生21名）

② 利用者数（７中学校内ほっとルーム）
R5年度末：3,301名（9月～3月　※光陵は7月～）
R6.7現在：3,234名（4月～7月）

【成果】

不登校児童生徒数は増加しているものの、“ここ”ほっとルームの開設により、これまで「学習の場なし」であった児童生徒数に減少がみられます。

また、「今まで家の中にいてどこにも通えなかったのに、“ここ”には通うことができているので驚いている」といった声や学校内にあることで学校とのつながりを感じられ喜ぶ姿等みられ、子どもの将来に向けた大きな一歩となっています。